



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

20. 落果防止剤の散布によるナシ「晴香®」の収穫前落果の抑制効果

[要約]

本県オリジナル品種である「晴香」は収穫直前に落果しやすい特性があるが、収穫期の7～14日前に落果防止剤を散布することで、収穫前落果の発生を抑制し、果実品質にも悪影響がない。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

本県オリジナル品種であるナシ「晴香」は、香りが強いなど品質が優れる上に日持ち性が良く、果肉障害の発生が少ない本県オリジナル品種である。しかし、これまでの試験から、収穫直前の落果を生じやすい特性が確認された。同様の特性を持つ「王秋」では、収穫前落果の発生を抑えるために落果防止剤の散布が必須とされる。そこで、落果防止剤の適期散布が「晴香」の収穫前落果の抑制及び果実品質に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 収穫前落果は、収穫開始日の7日前頃から発生し、収穫が近づくにつれ、発生量は増加する（図1）。
2. 収穫終了までの累積落果率は、無散布区は14.1%であったのに対して、散布区は7.8%と、明らかに少ない（図1、2）。
3. 平均収穫日は、処理の有無で大差がない（表1）。
4. 果実重、糖度、果肉硬度及び香りは、処理の有無で大差がない。また、果肉障害の発生にも差は認められない（表1）

[成果の活用面・留意点]

1. 落果防止剤（ジクロロプロップ液剤、商品名：ストップール®、（株）日産化学）の登録は、赤ナシ（王秋を除く）では、「収穫予定日の7～14日前に2,000～3,000倍を1回散布」である。
2. 本試験では、2本主枝仕立ての「晴香」2樹を供試し、両樹ともに主枝単位で散布区及び無散布区を設けている。散布区では、落果防止剤を2,000倍希釈し、収穫開始日の13日前に、果実袋を被袋した状態で新梢を含めた主枝全体に散布している。
3. 散布後30分以内に0.5mmの降雨があったが、再度散布を行っていない。散布直後に降雨があった場合でも、再度散布することは登録上できないため、本薬剤の散布は、降雨の無い晴天日に行う。
4. 散布する際は樹体全体にむらなく散布する。



[具体的データ]

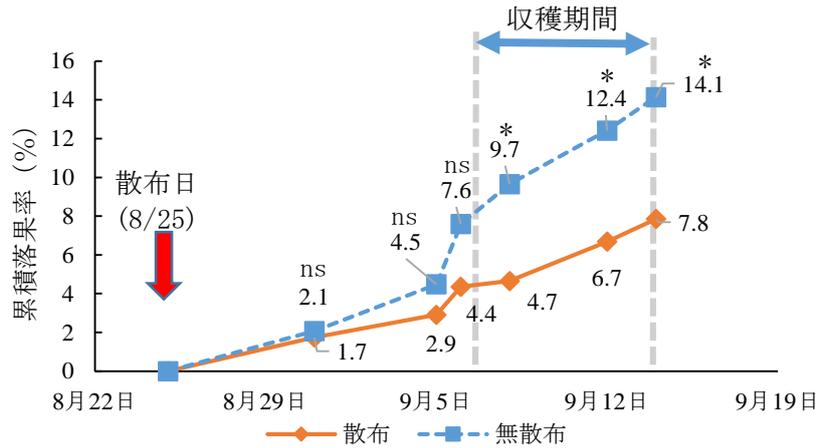


図1 落果防止剤の散布が「晴香」の収穫前落果の発生に及ぼす影響

^z 同一調査日の両試験区間に*は5%水準で有意差あり、nsは有意差なし (χ^2 検定)



図2 落果防止剤を散布した主枝（右側）及び無散布区（左側）の主枝の収穫前落果の様子

表1 落果防止剤の散布が「晴香」の平均収穫日、果実品質及び果肉障害に及ぼす影響

試験区	平均収穫日 (月/日)	果実重 (g)	地色 ^z (c.c)	果肉硬度 ^y (lb)	糖度 (° Brix)	果汁pH	熟度 ^x (0~4)	香り ^x (0~4)	煮え果 (%)	心腐れ (%)
散布	9/8	585	3.5	6.4	12.6	4.9	2.9	2.0	0	0
無散布	9/7	615	3.8	6.3	13.0	4.9	2.7	1.8	0	0
有意差 ^w	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns

^z 地色はニホンナシ地色判定用カラーチャートを用いた

^y Fruit pressure tester FT001による測定値 (8mm針頭)

^x 官能により、咀嚼時に判定 (0:無、1:微、2:少、3:中、4:多)

^w 地色、香り及び熟度はマン・ホイットニーのU検定、発生率は χ^2 検定、その他項目はt検定により、*は5%水準で有意差あり、nsは5%水準で有意差無し

[その他]

研究課題名：ナシ新品種の育成

予算区分・研究期間：県単・令3～4年度

研究担当者：佐々木郁哉、安井淑彦

関連情報：1) 試験研究主要成果、[平 27 \(61-62\)](#)、[平 29 \(23-24\)](#)